いさおだより

2　月　号
平成 25 年 1 月 31 日
和歌山市立有功小学校

東京が大雪に見舞われ，空港が積雪のため閉鎖されるという事態になりました。

強い寒気が流れ込み，日差しはありますが，やはり寒い放課後のことでした。1 年生は，終わりの会もすんで，めいめいに下校し始めていました。まだ授業中の学年も多い中，職員室に飛び込んできた女の子が一人。

「鯉の池に A ちゃんが落ちた！」

友達の危機に素早く行動を起こした B ちゃんは，簡潔に，必要最低限の事を，適切に伝えました。教頭が職員室から中庭に着くのとほぼ同時に，担任が到着しました。実は，B ちゃんとは別に，友達の危機に行動を起こした子がいたのです。教室へ担任を呼びに走ったのです。

A ちゃんは，怪我もなく，保健室で暖かいシャワーを浴びて着替え，お母さんに迎えに来てもらって帰りました。折り紙の蛙さんが池に落ちたので，池の中の鯉が餌と間違えて食べてはいけないと手を伸ばしたのだそうです。

鯉を案じ，友達を案じ，思いやり，行動できる子ども達。あたたかで優しい心が嬉しいです。しかも，「誰か何とかして」ではなく，「私が何とかしなければ」と思って行動することができる。このような力を育みたいと思います。

社会に出れば，指示されたことにプラスアルファの付加価値をつけて成果を上げなければなりません。何を成すべきか自分で考え，行動してはじめて一人前。「予算はいくらぐらい出るのでしょうか。」「何時までにやればいいですか。」と細かく質問してくるような人は，はっきり言って使えない。先ず自分で考え，その結論として，「予算はこれくらい，完成まで 3 ヶ月かかります。スタッフは○人必要です。なぜならば…」と要求するべきです。「どうしたらいいですか」といちいち指示を求める社員，分からないことは直ぐに人に聞くような社員には責任回避が心理的に働いています。指示に従って行動すれば失敗しても自分の責任では無いというわけです。こういう人に信頼して仕事を任せることはできません。良い仕事をするだろうと期待することは難しいからです。

他者を思いやる心と，自分で考えて行動できる力。もうすぐ 2 年生になる子ども達に大きな「力」が育っています。